



『議事録作成の実務と実践』

鈴木龍介 [編著]

A5版/264頁/3,000円+税

レクシスネクシス・ジャパン

本書は、会社法実務と理論に精通した編著者、経験豊富な実務家陣が執筆した「実務と実践」の1冊である。

私は、日常的に「議事録」に接し、議事録研修会の講師を務めることもある。そのため、「議事録」に関する書籍（「議事録本」）には敏感で、入手可能なものにはほぼ目を通した。信頼の定番書籍が4～5冊あり、今年に入り、平成26年改正会社法等への対応版が定番書籍の改訂を含めて複数冊出たという状況下で、本書は新たな定番になるだろう。

「議事録本」に何を求めるか。会社法の議事録に関する条文は簡潔に過ぎ、これだけで議事録を作るのは困難だ。書式・文例があれば切り貼りして議事録の体裁は整うかもしれないが、すべての会社の議案・報告事項を書式・文例集でカバーするのはムリだ。そうすると、「議事録本」の主要任務は、企業実務家に「議事録は何のために作るのか」、「議事録を作成するための視点・指針」を示し、応用力を身につけてもらうことだろう。この点、本書は、議事録の基礎、議事録作成の意義を明確にし、株主総会等の機関の役割・機能、議事録のあり方を簡潔かつ丁寧に解説している。

ついで、「議事録本」に必要なことは登記手続への対応である。議事録と登記手続は密接に関わる。書籍の文例に従い議事録を作成したが登記できなかったという笑えない失敗はしたくない。本書は、議事録が登記申請の添付書面になることを念頭に、登記手続に失敗しないための解説を随所に織込んでいる。

さらに、ニーズが高いのは、会社のさまざまな機関形態に対応すること、会社運営で生じる可能性の高い議案を網羅していることだろう。本書は、監査等委員会議事録を取り上げている。編著者および著者の1人が監査等委員会設置会社の役職員だけあって、まさに実務に即している。記載例は、各会議体で現に上程されうる議案をほぼ網羅している。

また、類書にない試みとして、英文議事録の記載例が豊富に収録されている。今後、取締役会等の構成の多様性を求めるコーポレートガバナンス・コードの影響もあり、外国籍の役員が増えるだろう。本書の試みは、多くの企業に多大な利益をもたらすに違いない。

このように、本書は、企業実務家、士業等の実務家に役立つ好著である。新・定番として、私も手元に置いて活用しようと思う。

[評者] 大川 治

堂島法律事務所 弁護士